

彩の歳時記

平成二十八年二月

梅花 王安石

牆角數枝梅
凌寒獨自開
遙知不是雪
為有暗香來

牆角 数枝の梅
寒を凌ぎて 独自に開く
遙かに知る
是れ雪ならざるを
暗香の有りに来たるが為なり

「土塀の隅に目をやると 枝枝に梅の花が寒さをもとせせず、どの花よりも早く独りだけで開いている。遠くでも あの白が雪でないのは分かる。どこからともなく良い香りがほんのりと漂って来ているから。」

今年春暖冬で、寒さを感じない間に、立春を迎えるかと思われましたが、大雪の

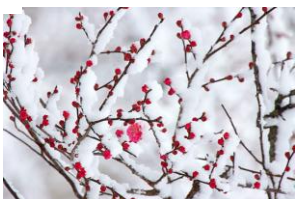
便りを思いがけないところから聞こえ異常気象を感じます。寒中、どの花よりも先に春を伝える梅の香と色を理知的詠んだ名詩。漢詩では白梅は

雪に例えられますが、梅と雪を重ねて詠むのは二月という時季だけ、泉鏡花の小説『婦系図』の舞台、湯島天神では「梅祭」が開催され多くの受験生等で賑わうのは、天神が学問の神、菅原道真

【845～903】を祀る神社に因るからです。道真の有名な歌に

「東風(こち)吹か白いおこせよ梅の花 主あるじなしとて春を忘るな

暖かい東風に誘われて「観梅」を楽しみたい季節です。



二月の暦

如月 寒さのために更に更に着物を重ねて着るので「衣更着」中国での二月の異称。

三日 節分【雑節】

各季節の始まりの日(立春・立夏・立秋・立冬)の前日。春⇨新年を迎える前に邪気を払い福を呼ぶために、宮中行事として追儺(ついな・鬼やらい・豆うち)の名残りが「豆まき」。池上本門寺、芝・増上寺の節分追儺式などが有名。

その年の恵方(今年は南南東)を向いて、巻き寿司を食べる習わしが近年盛んに。

四日 立春【二十四節気】

「立春正月」は旧暦(太陰太陽暦)の年頭。二十四節気の最初の節。八十八夜、二百十日など、この日から数える。暦の上では旧冬と新春の境目。

八日 針供養 浅草寺(淡島堂)

家庭の針仕事はもとより、針を扱う業種の人も針を休め、針箱の掃除をした。



十一日 建国記念日

紀元前六六〇年、伝説上の神武天皇が即位したとされる日。昭和四十一年制定。「建国をしのび、国を愛する心を養う」日。外国は独立記念日などが多い

十二日 菜の花忌

野に咲いたんばばや菜の花を愛でた小説家・司馬遼太郎の【1923～1996】の忌日。



江戸の廻船商人を主人公に彼の歴史観を織り込んだ『菜の花の沖』がある。『梟の城』で直木賞。代表作に『竜馬がゆく』『坂の上の雲』『国盗り物語』他出身地・大阪府。東大阪市の自宅敷地跡に記念館。没後二十年を迎える。「第二十回菜の花忌シンポジウム」。

十四日 バレンタインデー 1970年代後半 「女性が本命の男性に親愛の情を込めてチョコ

レートを贈る」という「日本型バレンタインデー」様式が成立。女性から男性への愛情表明の機会との認識で、「義理チョコ」「友チョコ」など、キリスト教関連は意識されず贈答習慣に。



十九日 雨水【二十四節気】

温かさに雪が雨にかわり、氷がとけ始める頃。この日に**雛人形**を飾りつけると良縁に恵まれるとも言われる。

二月の歌 湯島の白梅

詞 佐伯孝夫 曲 清水保雄



泉鏡花の新聞連載小説(明治四十年)『婦系図(おんなけいず)』昭和十七年映画化の主題歌。『婦系図』は『金色夜叉』『不如帰(ほととぎす)』と共に明治三大メロドラマ。『婦系図』「切れるの別れるのッて、そんな事は、芸者の時に云うものよ。私にや死ねと云って下さい」や、尾崎紅葉『金色夜叉』で熱海海岸での貫一の「来年の今月今夜のこの月は僕の涙で曇らせてみせる」、徳富蘆花『不如帰』での逗子海岸で浪子が夫に「ああ、人間はなぜ死ぬのでしょう！生きたいわ！千年も万年も・・・」などのセリフが人口に膾炙し、新派の舞台上演も多く、昭和の一つの時代を彩った。

- 一 湯島通れば想い出す お蔭主税の心意気 知るや白梅 玉垣に残るふたりの影法師
- 二 忘れられようか筒井筒 岸の柳の縁結び 堅い契りを義理ゆえに 水に流すも江戸育ち
- 三 青い瓦斯燈 境内を出れば本郷切り通し あかぬ別れの中空に 鐘は墨絵の上野山